

和寒町 わっさむちょう



役場所在地 北海道上川郡和寒町字西町120番地
郵便番号 098-0192
電話番号 (0165) 32-2421
FAX番号 (0165) 32-4238
市町村コード番号 014648
市町村別類型 I-0
交通機関 JR宗谷本線と寒駅から徒歩10分、道北バスターミナルから徒歩10分
ホームページ <https://www.town.wassamu.hokkaido.jp/>

〔地 勢〕

町の東、西、南の三方は丘陵が起伏しているが、中央部は大体において平坦で、北に行くにしたがって低くなり、天塩原野に開けている。

上川盆地の一部で、東西南は和寒山の740mを最高に、300m～500mの丘陵に囲まれ、天塩川の支流である剣淵川の最上流部に位置している。剣淵川は和寒町と剣淵町との境界付近で、扇状に六線川、剣淵川、ペオッペ川の各支流に分岐している。

〔歴 史〕

本町は、もと増毛支庁の管轄下にあり剣淵村に含まれていた。明治32年、上川支庁管内に移され、屯田兵用地として選定されたが、移り住む者はなかった。しかし、同年11月15日に鉄道が和寒市街まで開通し、明治34年に屯田用地を民有とし植民区画地を設定されて、ようやく70戸が団体移住してきた。明治35年には、相馬、山形、南部、佐賀、越中、秋田の各団体がぞくぞく入地し、道内からの移住者もあわせて人口は急激に増加した。大正4年4月1日、剣淵村のうち和寒原野とペオッペ原野を分離し、和寒村として独立した。その後、除虫菊の好況や、水田が開発されるにしたがい村勢は日を追って伸展し、昭和27年1月1日には待望の町制を施行した。

その後、農業、商工業の振興により昭和34年には1万1,736人と最高の人口を擁したが、漸次過疎化の傾向を見せ、米の生産調整が実施されてからは、いっそう加速度を増した。しかし、過疎対策の指定を受け各種事業の推進の結果、最近では安定した生産と、福祉、教育と文化が相調和する豊かな郷土の出現を見つつある。

〔町政のあゆみ〕

昭和27年	町制施行	平成7年	和寒町農業活性化センター「農想塾」完成、和寒町保健福祉センター完成
〃 40年	町民憲章、町章制定、町民プール完成	〃 8年	三和小学校改築
〃 42年	和寒高校道立移管、町体育館新築	〃 9年	農村体験研修施設「ふれあいの里」完成
〃 44年	東山スキー場開設	〃 10年	塩狩峠記念館「旧三浦綾子邸」復元
〃 45年	青少年会館完成	〃 11年	和寒町開基100周年記念式典挙行、公民館改築、恵み野ホール完成
〃 46年	町営バス運行開始、第1次総合計画策定	〃 12年	特別養護老人ホーム ショートステイ完成
〃 49年	統合中学校完成	〃 13年	東山スキー場ロッジ建替、道央自動車道旭川鷹栖IC～和寒IC間開通
〃 50年	開基75周年・開村60周年記念式典挙行、町立病院改築完成	〃 14年	南宗谷線地区広域米穀乾燥調整貯蔵施設（カントリーエレベーター）完成
〃 51年	特別養護老人ホーム「芳生苑」開設	〃 15年	第4次総合計画策定
〃 53年	総合庁舎（役場・住民センター・消防）完成	〃 16年	和寒町交流施設「ひだまり」完成
〃 54年	特定環境保全公共下水道工事着手	〃 17年	道央自動車道と寒IC～士別剣淵IC間開通、三笠山自然公園パークゴルフ場完成
〃 55年	国営剣淵西部地区農地開発事業完了、和寒町保養センター（公衆浴場）開設	〃 18年	和寒町球場完成
〃 56年	第2次総合計画策定	〃 19年	高齢者共同福祉住宅完成
〃 57年	西和・中和地域センター完成	〃 20年	第3次和寒町行政改革大綱
〃 58年	和寒中に第2体育館、農産加工センター完成	〃 21年	和寒町開基110周年記念式典挙行
〃 59年	生きがいセンター完成、史上最高の水稲豊作	〃 22年	和寒小学校改築、和寒中学校移転、町立病院改築、和寒高校閉校
〃 61年	自給肥料供給センターごみ焼却施設完成	〃 23年	第5次総合計画策定
〃 62年	葬斎場新築	〃 25年	木質バイオマス燃料製造施設完成
〃 63年	産業会館新築	〃 26年	農村体験交流滞在施設「エココテージ」、地域資源活用交流施設「ふれあいのもり」完成
平成元年	北原小学校改築、特定環境保全下水道供用開始	〃 27年	和寒町開村100周年記念式典挙行
〃 2年	和寒町総合体育館、研修館「楡」完成、開基90周年・開村75周年記念式典挙行	〃 30年	和寒町簡易水道東丘浄水場新築
〃 3年	ジュネスハウス（単身者向住宅）完成、第3次総合計画策定	令和3年	和寒町立病院を無床診療所化
〃 4年	片栗庵（ミニ文化施設）完成		第6次総合計画策定
〃 5年	東山スキー場ペアリフト更新		
〃 6年	町立図書館完成、デイサービスセンター「健楽苑」完成		
	昭和61年 南中小学校完成		

〔行政施策の重点事項〕

令和3年に第6次総合計画を策定し、これに基づいて住み続けたいと思えるまちづくりをめざしていきます。

- ・活力とにぎわい
- ・福祉と医療と支えあい
- ・子育てと学び
- ・安全安心
- ・生活とくらし
- ・町民活動とまちの財政

〔行政管理の特色〕

1. 高度情報化社会に適応するため総合行政システムの導入と庁内LANの積極的な利用に努め、住民サービスを向上させるワンストップ対応可能な「お客さま窓口」を設置している。
2. 近隣自治体と事務の共同処理（消防・介護認定審査会）や施設の共同設置（生ごみ処理場・有害鳥獣処分場）を行うほか学校給食の委託を行うなど経費の節減に努めている。
3. 自治基本条例を制定し協働のまちづくりをすすめ、地域毎の懇談会を毎年開催している。
4. 業務の民間委託及び指定管理者制度を活用し、職員数の増加抑制を図っている。

〔財政の概況〕

歳入の約73%は地方交付税と国・道支出金で占め、町税はわずかに約7%にすぎず、町債が約8%となっている。苦しい財政状況下において、重点施策を計画的に推進するため、経常経費の節減に努めて、収支の均衡に配慮しながら、健全財政の確保を図っている。

〔主な公共施設〕

中学校(1)、小学校(1)、東山スキー場(リフト2基574m、309mジャンプ台30m級)、保育所(常設1)、特別養護老人ホーム、町立診療所、保養センター、児童館、総合体育館、研修館「榎」、町公民館、町営球場、三笠山自然公園、郷土資料館、生活研修センター、農産加工センター、生きがいセンター、ゲートボール専用コート、海洋センター(プール)、ごみ処理施設、パーク粉碎施設、ジュネスハウス、片栗庵、町立図書館、デイサービスセンター、農業活性化センター、保健福祉センター、パークゴルフ場(18ホール・2ヶ所)、南丘森林公園、塩狩峠記念館、北原交流展示館、交流施設「ひだまり」、木質バイオマス燃料製造施設、木質バイオマス熱源供給施設、農村体験交流滞在施設「エココテージ」、地域資源活用交流施設「ふれあいのもり」

〔産業・経済〕

米作を中心とする農業が町の産業を支えてきたが、米の生産調整に伴い畑作との複合経営を余儀なくされており、農地開発、かんがい排水、ほ場整備、農業構造改善などの事業が進められて、基盤整備は着々と進行している。今後は、規模拡大とともに既に特産物として市場を確保しているキャベツ・カボチャ・葉菜類を奨励するとともに、これらに続く新しい特産物としてペポカボチャの栽培・商品化・販売に力を入れている。工業については、国道沿いに20haの工業団地を造成し企業誘致に努めているが、内陸の積雪地帯という地理的条件の中で8企業が立地したにすぎないが、交通輸送・電力・地価・労働力など利点を強調し誘致活動を進めるとともに既存工業を育成し、人口流出防止に期待している。商業については小店舗が多く、購買力の町外流出のため、空き店舗が増加し、その対策が急がれる。

〔文化・観光〕

塩狩峠 古くは天塩国と石狩国の境界にある峠で、三浦綾子の同名の小説のモデル長野政雄殉職の地頭彰碑が建立されており、三浦綾子の旧宅を復元し資料等を展示した塩狩峠記念館がある。

三笠山自然公園 和寒市街の南方2kmの国道沿いにあり、キャンプ場(無料)・バンガロー(有料)4棟があり、高さ8mの恵水碑・7mの白い観音像がそびえ立っている。こどもの国の遊具等を整備し、13年度にリニューアルオープンした。

東山スキー場 和寒駅から徒歩10分、国道から徒歩5分、リフト2基(574m、309m)、30m級ジャンプ台、ロッジ、駐車場、夜間照明がある。初心者から中・上級者に適したスロープがあり、特に家族連れに人気がある。

南丘森林公園 水と緑と人との調和を創造する目的で、湖周辺に群生する自然林を活用してキャンプ場・カヌー乗り場等を整備しており、アウトドアの拠点施設として人気が集まっている。

〔宿泊施設〕

和寒町研修館「榎」50名収容 TEL(0165)32-4482 和寒町総合体育館併設

和寒町農村体験交流滞在施設「エココテージ」10名収容 TEL(0165)32-3300

塩狩ヒュッテ 14名収容 TEL(0165)32-4600

剣淵町 けんぶちちょう



役場所在地 北海道上川郡剣淵町仲町37番1号
郵便番号 098-0392
電話番号 (0165) 34-2121
FAX番号 (0165) 34-2590
市町村コード番号 014656
市町村別類型 I-0
交通機関 宗谷本線剣淵駅から徒歩5分
ホームページ <https://www.town.kembuchi.hokkaido.jp/>

〔町名の由来〕

語源は「ケネベツ」。「ケネ」は、はんの木、「ベツ」は川で、「はんの木の多い川」という意味からきている。また、「ケネベツ」を早くいうとケンブチと聞こえるところからケンブチ（剣淵）と呼ばれるようになった。

〔町章の由来〕

剣淵をローマ字で書いたときの頭文字「K」をデザインしたもので、中央の三角形は、郷土の安定と町の象徴の一つである平波山を表している。

鋭角の組み合わせは、未来への発展と躍進を力強く表現し、外側の二重の輪は団結と協力及び和を表している。

〔地勢〕

北海道における旭川低地帯の北部にあたる旭川盆地の一部で、古代には湖水をたたえた跡であるといわれ、犬牛別丘付近からしじみ、はまぐりの化石が発見されている。山脈は、士別市温根別町界をなしている小山脈が南北に縦走するのみで、河川も天塩川の支流である剣淵川が中央を流れその中央が平野となり東西両部が丘陵となっている。

標高（海拔）は、最低129m・最高440mで、雨量は春季に少なく秋季に多く冬は雪が多い。

〔歴史〕

明治30年6月に増毛支庁管下天塩国上川郡に剣淵村ほか3か村（士別村、多寄村、上名寄村）が設置されたのに始まる。明治31年10月に屯田兵屋の建築に着手し、翌32年7月12日に屯田兵337戸が入地し、剣淵村ほか3か村戸長役場が設置された。その後、明治39年に2級町村制が施行され、自治体として完全な独立をみるに至った。大正4年4月に現在の和寒町を、また、昭和2年10月に再び今の士別市温根別町を分村し、昭和37年1月1日町制を施行し、現在に至っている。

〔町政のあゆみ〕

明治32年	屯田兵337戸入地、剣淵尋常高等小創立	平成3年	農業振興センター完成
〃 33年	鉄道開通剣淵駅開駅、剣淵神社創立	〃 4年	常設保育完成（絵本風の外壁）
〃 39年	2級町村制施行、第1回村議会議員選挙	〃 5年	レークサイド桜岡（温泉部門）完成
〃 44年	公設剣淵消防団創立		精神薄弱者授産施設「剣淵北の杜舎」完成
大正11年	電話通話開始	〃 6年	レークサイド桜岡（宿泊部門）完成
昭和19年	役場庁舎完成	〃 7年	富山県大門町（現射水市）と姉妹都市締携
〃 23年	剣淵市街大火173戸焼失	〃 8年	香川県志度町（現さぬき市）と友好都市締携
〃 37年	町制施行	〃 9年	高齢者福祉寮「福寿寮」完成
〃 47年	剣淵町立診療所完成		開基100年記念
〃 49年	農村基盤整備パイロット事業着手	〃 10年	けんぶち食のふるさと館完成、健康福祉総合センター完成
〃 50年	秋の集中豪雨で農作物等10.2億円の被害	〃 11年	一般廃棄物最終処理場完成
〃 51年	総合幼児センター完成	〃 12年	剣淵高等学校寄宿舎「創明寮」完成
〃 54年	道々上士別剣淵停車場線踏切除却工事完成	〃 16年	剣淵町絵本の館完成
〃 55年	精神薄弱者更正施設「剣淵西原学園」開設、 国営パイロット事業剣淵西部地区完成	〃 17年	町全域の字名改正及び地番改正
	総合庁舎完成、防災行政無線システム設置	〃 18年	農林水産物直売・食材供給施設（道の駅「絵本の里けんぶち」）完成
〃 58年	地場産品加工研究センター完成		剣淵町観光交流センター（まちの駅）完成
〃 59年	地力増進施設完成	〃 22年	剣淵町学童保育所完成
〃 60年	南剣淵公園完成	〃 23年	ペルー共和国フニン県タルマ群バルカマヨ区と姉妹都市締携
〃 62年	ふれあい公園完成		
〃 63年	剣淵高等学校校舎改築、 町営球場「平波球場」完成	〃 24年	映画「じんじん」撮影
平成元年	特別養護老人ホーム「ひらなみ荘」開設	〃 26年	デマンド方式乗り合いタクシーの運行開始
	屋内ゲートボール場完成	〃 27年	ペルー共和国フニン県タルマ市と姉妹都市締携
〃 2年	剣淵町武道館完成、 剣淵絵本原画収蔵館完成	〃 30年	開基120年記念

〔行政施策の重点事項〕

120年あまりの間、基幹産業の農業を中心に発展を続け、住民の生活環境の充実などに取り組み、住みよいまちづくりを進めている。現在は、“絵本の里”づくりを柱としたまちづくりにも取り組み、人々のやさしさと温もりを育み、魅力あふれるまちづくりを推し進めている。しかしながら、「超高齢社会」と言われる人口構成で、子育てや老後、介護への不安が高まり、地域社会における支え合いが一層求められることから、まちに住む者同士が、立場や年齢、経験の違いなどを超えて、知恵や力を出し合い、“協働のまちづくり”により課題を解決し、支え合っていくことのできるまちづくりを目指して、令和3年度から10年間の「第6期剣淵町総合計画」を策定し、『人・夢・大地 次代につなぐ 絵本の里けんぶち』をまちづくりテーマとし、「住みよさ」と「持続・発展」を両立したまちづくりを進めている。

〔文化・観光〕

絵本の館 絵本43,000冊以上を備え、町内外を問わず貸出しを行っている。平成16年には施設を移転新築し、図書室を併設して6月にオープンした。毎年8月には「けんぶち絵本の里大賞」と「絵本原画展」、2月には「絵本まつり」などその他多くのイベントを開催している。

桜岡湖 春は桜などが咲き誇り、夏には大きな樹木が涼しさを、秋には紅葉が彩りを添え、四季折々の美しい表情を湖面に映している。カヌー、魚釣り等でにぎわい、周辺にはキャンプ場、パークゴルフ場そして町民の保養の場「レークサイド桜岡」がある。

ビバアルパカ牧場 アルパカは、南米ペルーの3,500m以上の高原地帯に生息するラクダ科の動物で、ビバアルパカ牧場のアルパカ達はペルーから那須ビッグファームを経て剣淵町へ到着した。冬は樹氷観察やエアボードを利用することができる。

けんぶち桜岡湖水まつり 町内事業者・団体が連携し桜岡湖畔で町内の飲食店の出店、ヒーローショー、歌謡ショー等を開催している。夜には、花火大会があり多くの人で賑わっている。

絵本の里けんぶちぐるっとライド 剣淵町を出発し和寒町、幌加内町、士別市をぐるっと回り美しい景気と美味しいグルメを楽しむサイクリングイベント。眺めの良い丘を通るので、農村風景を堪能することができる。また、各市町では、ご当地グルメを味わい、お腹も心も満たすことができる。

〔視察のみどころ〕

・絵本の館

図書室、体験教室、展示室を設けており、原画展や木のおもちゃ展、コンサートなどさまざまな催しが行われている。

絵本43,000冊以上、児童書・一般図書30,000冊以上、合計約73,000冊収蔵、毎週水曜日休館。

・絵本原画収蔵館

絵本原画を収蔵及び展示している。

・桜岡湖及び温泉施設

平成14年夏季から桜岡湖周辺を自然・文化を通した「絵本の里家族旅行村」がオープンし、多くの利用客で賑わいを見せている。平成5年11月、「レークサイド桜岡」（温泉宿泊研修施設）の温泉部門がオープンし、「体の芯から暖まる」と好評。温泉の適応症は神経痛、筋肉痛、五十肩、うちみ、痔疾、健康回復など。また、平成6年12月には宿泊研修施設が完成し、宿泊定員80名、多目的ホールや研修室、レストラン等を備え、全館オープンした。

・健康福祉総合センター（愛称「ふれあい健康センター」）

町立診療所を併設し、平成10年4月にオープンした総合的な保健福祉施設である。保健部門、福祉部門、住宅福祉推進部門、公衆衛生部門、健康増進部門それぞれに最新の設備と機能を備え、町民の健康づくりの拠点として利用されている。

・道の駅「絵本の里けんぶち」

平成18年9月21日、剣淵町農林水産物直売・食材供給施設が道内93番目の道の駅の認定を受けてオープン。基幹産業の農業を活かし、食と農業と絵本のまちづくりをテーマに交流人口の向上と地域産業の活性化を目指している。

道の駅に入ると、焼きたてのパンの香ばしいかおりが出迎えてくれる。地場産野菜の良さを消費者に知ってもらうため、施設内の農産物直売所で販売しているほか、地場産野菜をふんだんに取り入れた料理をそろえたレストラン『ムーニャ』は、昼食時には多くの人で賑わっている。

休憩ホールの一隅『たべものと絵本』コーナーでは、食べ物に関する絵本約200冊を読むことができ、絵本を通してゆっくりとした時間を過ごすことができる。

道の駅周辺には、遊具などを設置した多目的広場やドッグランを整備している。

・上川北部合理化でん粉工場

近隣10農協で昭和42年に設立され、でん粉製造のほかポテトパルプ飼料、特殊発酵飼料なども製造。道北屈指の工場として、その機能を十分に発揮している。

〔宿泊施設〕

レークサイド桜岡 TEL 0165-34-3100

下川町 しもかわちょう



役場所在地 北海道上川郡下川町幸町63番地
郵便番号 098-1206
電話番号 (01655) 4-2511
FAX番号 (01655) 4-2517
市町村コード番号 014681
市町村別類型 I-0
交通機関 下川町バスターミナル合同センターから徒歩5分
ホームページ <https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/>

〔地勢〕

上川管内の北東部に位置し、北部はピヤシリの霊峰が北見国境にそびえ、雄武町及び名寄市との分水嶺をなしている。中部は名寄川を中心として盆地をなし、農産物の源泉となっており、南部は一般に丘陵地帯である。

町の大部分を占めている山林には、広葉樹・針葉樹が繁茂し、木材の供給源となっている。下川鉱山・珊瑚鉱山により鉱業基盤を築いていたが現在は休山となっている。

〔歴史〕

明治34年に開拓の鉾がおろされ、大正13年、名寄町から分村して下川村が誕生した。独立後、米作は各地に水利組合が設立され盛んになり、大正15年には、三井珊瑚鉱山が開設、その後、下川・一の橋両営林署が開庁して、農・林・鉱の三大産業の町として基盤を築いてきた。自治体の形態も整い、昭和24年には町制を施行した。昭和31年に一の橋市街、翌32年に下川市街と連続大火に見舞われたが、その復興はめざましく、昭和45年に開基70年、昭和49年に独立50周年記念式典を挙行、平成2年に開基90周年、町制施行40周年を挙行、平成12年に開拓100周年記念式典を挙行している。

〔町政のあゆみ〕

明治34年	岐阜団体入地し、開基をみる	平成10年	国有林（一の橋地区）購入開始
大正13年	名寄町から分村して下川村誕生	〃 12年	下川町開拓100周年記念式典、カナダ・ケノーラ市と友好都市提携、第4期下川町総合計画策定
昭和21年	開拓者集団入地	〃 13年	総合福祉センター完成、一の橋小学校及び上名寄小学校休校決定
〃 24年	町制施行	〃 14年	生活支援ハウス完成、知的障害者グループホーム完成
〃 26年	役場庁舎新築落成	〃 15年	万里長城パークゴルフ場完成
〃 31年	一の橋市街地大火（227戸焼失）	〃 16年	農村活性化センター完成
〃 32年	下川市街地大火（160戸焼失）	〃 17年	五味温泉木質バイオマス熱供給施設完成
〃 33年	下川町章制定	〃 18年	幼児センター完成、下川町自治基本条例制定
〃 35年	下川高校普通課程設置、公区制施行	〃 19年	地域間交流施設完成
〃 41年	町体育館落成（現町民会館）	〃 20年	環境モデル都市に認定される
〃 45年	総合開発計画策定、町営プール設置	〃 21年	環境共生型住宅エコハウス完成、桜ヶ丘公園センターハウス「フレペ」完成、木質原料製造施設完成、役場周辺熱供給施設完成
〃 47年	統合新設下川小学校舎落成	〃 22年	共生型住まいの場「ぬく森」完成、地域情報通信基盤（光ファイバー網）整備、高齢者施設熱供給施設完成
〃 49年	庁舎改築落成、町営バス運行開始	〃 23年	第5期下川町総合計画策定、環境未来都市に選定、地域活性化総合特区指定、町立下川病院改修（1期工事）、
〃 51年	町立幼稚園開設、町立病院増改築落成	〃 24年	一の橋住民センター完成、環境未来都市構想推進国際フォーラム、国際森林フォーラム開催、一の橋バイオビレッジ集住化住宅完成、京都府京丹波町と友好交流に関する協定締結
〃 53年	町木、町花制定、下川中学校校舎落成	〃 25年	バイオマス産業都市選定、高知県梶原町及び熊本県小国町と「持続可能な小規模自治体アライアンス」締結
〃 55年	廃棄物処理施設完成	〃 26年	下川町特用林産物栽培研究所設置、地域活性化モデルケース選定（内閣官房）
〃 56年	下川公民館落成	〃 28年	まちおこしセンター「コモレビ」完成
〃 57年	特別養護老人ホームあけぼの園、町営野球場、農産物加工研究所完成	〃 29年	宿泊研修交流施設「結いの森」完成、第1回ジャパンSDGsアワード本部長（内閣総理大臣）賞受賞
〃 58年	2,000年の森展望台完成、企業誘致工場新設	〃 30年	SDGs未来都市に選定
〃 59年	火葬場管理棟新設	〃 31年	第6期下川町総合計画策定
〃 60年	知的障害者更生施設山びこ学園新設		
〃 61年	火葬場新設・万里長城築城開始		
〃 62年	町営スキー場ロッジ完成		
〃 63年	農業環境改善センター完成、下川商業高等学校改築		
平成元年	第3期下川町総合計画策定 JR名寄線廃止に伴う代替バス運行開始、 B&G財団・下川海洋センター建設		
〃 2年	デイサービスセンター開設		
〃 3年	バスターミナル合同センター完成、ふるさと交流館完成		
〃 4年	桜ヶ丘アリーナ完成		
〃 5年	一の橋コミュニティセンター、林業総合センター完成		
〃 6年	国有林「21世紀の森」購入開始		
〃 8年	下川町公共下水道供用開始		

〔行政施策の重点事項〕

第6期下川町総合計画の将来像に「2030年における下川町のありたい姿」を位置付け、「誰ひとり取り残されず、しなやかに強く、幸せに暮らせる持続可能なまち」をめざし、長期的、複眼的な視点でまちづくりを進める。

- (1) みんなで挑戦しつづけるまち
危機や困難に挑戦し続ける不屈の精神や多様な人々、価値観を受け入れる包容力、寛容性など「下川らしさ」を体現するまち
- (2) 誰ひとり取り残されないまち
すべての人が可能性を伸ばされ、居場所と出番があり、健やかに生きがいを感じて暮らせるまち
- (3) 人も資源もお金も循環・持続するまち
人・自然資源（森林・水など）・お金などすべての永続的な循環・持続、農林業など産業のさらなる成長、食料、木材、エネルギーなどの地産地消により、自立・自律するまち
- (4) みんなで思いやれる家族のようなまち
人とのつながりを大切に育み、お互いを思いやり、支え合って、安全で安心して住み続けられるまち
- (5) 引き継がれた文化や資源を尊重し、新しい価値を生みだすまち
古くても大切なものは守り、新しい価値を生み出す「温故起新」のまち
- (6) 世界から目標とされるまち
下川町のこれまでの取り組みを基盤に、さらに進化・深化させ、脱炭素社会の実現（パリ協定）や世界の持続可能な開発（SDGs）の実現に寄与するまち
- (7) 子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち
子どもたちがいきいき伸び伸びと成長するよう、すべての未来世代のことを考え、地域全体で育むまち

〔行政管理の特色〕

住民サービス向上と行政事務の効率化を目的として、OA化を進め職員1人1台の端末を設置し、また、グループウェアを導入し、情報の共有を図っている。（総合行政情報システム、財務会計システムの導入）

職員の人材育成基本方針及び倫理規定を定め、分権時代に即応できる職員の養成に努めるとともに職員の意義高揚を促す自己啓発の支援を行っている。

平成19年4月1日に、町政運営の基本的な理念と制度運営の原則を明らかにした自治基本条例が施行された。

〔財政の概況〕

地方交付税、国、道支出金及び地方債等への依存度が高く80%を占め、町税は4%に止まっている。

第6期総合計画に財政運営基準（財政指標）を設定し、まちの成長・発展に向けた投資（政策の推進）を行いつつ、将来世代に過度な負担を先送りしない「持続可能な財政運営」を行っている。

〔主な公共施設〕

公民館、廃棄物処理場、町立病院、町民会館、スキー場、スキージャンプ台、クロスカントリーコース、小学校、中学校、高等学校、スポーツセンター、浄水場、町営野球場、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、町営スキー場ロッジ、火葬場、展望台、B&G 財団海洋センター（プール）、町営テニスコート、デイサービスセンター、バスターミナル合同センター、ふるさと交流館、桜ヶ丘アリーナ、下川浄化センター、総合福祉センター、生活支援ハウス、知的障害者グループホーム、万里長城パークゴルフ場、農村活性化センター、認定こども園、地域間交流施設、桜ヶ丘公園センターハウス、木質原料製造施設、共生型住まいの場、まちおこしセンター、宿泊研修交流施設

〔産業・経済〕

基幹産業の農業は、特色を活かした農業経営の持続的発展のため、生産基盤の整備をはじめ、安全・安心な作物の栽培、担い手及び新規就農者等の育成支援、環境にやさしい農業の推進、畜産振興に努める。

林業においては、環境に配慮した持続可能な森林経営を目指し、自然環境の保全など公益的機能を発揮できるよう森林整備を継続している。また、森林資源を有効活用した付加価値の高い木材製品の加工・流通、経営安定・雇用拡大、担い手の確保・育成に努める。

商工業においては、中小企業振興基本条例に基づき、経営の革新や基盤の強化のための新分野進出、空き店舗対策、後継者対策を実施していくとともに、誘致企業との連携強化・経済交流、また、新たな企業誘致の促進に努める。

その他、地域資源の活用、また、新たな産業展開・地域経済の活性化を図るため、環境未来都市・地域活性化総合特区（森林総合産業特区）の具現化に取り組んでいる。

〔文化・観光〕

町指定文化財・はるにれ 樹齢約830年（直径136cm、樹高23m）と推計され、下川簡易教育所（明治40年12月建設）の前に切り残されたもので、現在下川小学校舎前にそびえている。

上名寄郷土芸能（麦や節、郡上節、小大尺） 明治34年に岐阜県郡上郡高鷲村から上名寄地区に入植した開拓者が開拓の苦しみの中で故郷を偲び、唄い踊られ今日まで伝えられてきたものである。

観光 五味温泉、ピヤシリ山と御車の滝、矢文湖、ふるさと2000年の森展望台、サンル牧場、ふるさと交流館、万里長城、万里長城祭5月、しもかわうどん祭り8月、アイスキャンドルミュージアム2月

〔宿泊施設〕

五味温泉 宿泊定数50人 TEL (01655) 4-3311 バスターミナル合同センターから町営バスで15分、五味温泉前で下車

結いの森 宿泊定数24人 TEL (01655) 6-7636 バスターミナル合同センターから徒歩1分

美深町 びふかちょう



役場所在地 北海道中川郡美深町字西町18番地
郵便番号 098-2252
電話番号 (01656) 2-1611
FAX番号 (01656) 2-1626
市町村コード番号 014699
市町村別類型 I-0
交通機関 宗谷本線美深町交通ターミナルから徒歩5分
ホームページ <http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/>

〔地勢〕

稚内市と旭川市のほぼ中間にあつて、中川郡の南半分を占める広域を有している。東方には函岳（標高1,129m）を主峰とする北見山地が、西方には天塩山地が連なり、ここを源とする大小河川が沢なりの平地を形成しながら、中央部を南北に貫流する長大河川の天塩川に合流、地味肥沃な盆地を形成している。これらの恵まれた土壌と豊富な林産資源を利用して、早くから稲作、畑作、酪農、林産工業の町として栄えてきた。

〔歴史〕

道内屈指の大河天塩川の恩恵を受け、本町の歴史は幕を開けた。天塩川筋には古代先住民の縄文、擦文文化の遺跡、遺物が多く残っている。和人としての最初の入植は、明治32年に富山県から渡ってきた平喜三郎であり、天塩川沿の美深8線において最初の鉄が入れた。明治44年に鉄道が恩根内まで開通するとともに急速に入植者の数が増し、飛躍的な発展を遂げるに至った。大正4年に下名寄村として初の自治行政を行い、大正9年に智恵文を分村し美深村と改称、大正12年に1級町村制を施行して美深町となり、現在に至っている。昭和30年代の人口は14,000人台が続き、昭和40年頃から人口の減少が目立つようになった。

昭和3年の大火、たび重なる冷害、天塩川の氾濫など多くの困難を住民の和協一致で乗り越え、平成30年に開拓120年の記念式典を挙げる。また、昭和56年10月には九州福岡県添田町と姉妹町、平成6年7月にはカナダアシュクラフト村と友好都市提携を結んだ。平成8年にスバル北海道美深試験場の一期工事が行われ、平成30年には「高速運転支援技術テストコース」が完成するなど、新たな発展を遂げている。

また、本町は国道40号線、同275号線、道道49号線の基点など交通の要衝として多大の役割を果たしている。

〔町政のあゆみ〕

大正12年	1級町村施行により美深町と改称	平成17年	「自治会地域担当員制度」設置、北海道教育大学と相互協力協定締結
昭和3年	市街地の大火80%焼失	〃 18年	フリースタイルスキー競技・エアリアル公認コース完成
〃 23年	美深町第1期農業復興計画樹立	〃 19年	美深町特別養護老人ホーム民間移管
〃 37年	低開発地域工業地区に指定される	〃 20年	美深町幼児センター開所
〃 39年	国鉄美幸線仁宇布まで部分開通	〃 22年	第5次総合計画樹立、美深小学校新校舎完成
〃 41年	へき地電気導入で未点灯農家解消	〃 23年	光ファイバー防災端末機供用開始
〃 44年	山村振興法の指定を受ける	〃 25年	一般国道40号名寄美深道路開通、イメージキャラクター美深（びふか）くん&美深（みみ）ちゃんデビュー
〃 51年	びふか松山湿原が道自然環境保全地域に指定、第1回美幸線松山湿原まつり開催	〃 26年	北海道大学大学院水産科研究院・水産学部との包括連携協定締結 チョウザメ養殖施設「SAF恩根内」完成
〃 52年	美深歌登スーパー林道開通	〃 27年	びふか温泉木質バイオマスボイラ竣工 美深中学校、学校給食センターCAMCAM完成 学校給食がスタート
〃 56年	福岡県添田町と姉妹町提携	〃 30年	チョウザメ飼育研究施設稚魚ふ化棟が完成 スバル北海道美深試験場に「高速運転支援技術テストコース」完成 開拓120年記念式典挙げる、記念花火大会開催
〃 59年	北海道美深高等養護学校開校	令和2年	第6次総合計画樹立
〃 60年	国鉄美幸線廃止、バス転換となる	〃 3年	仁宇布小中学校新校舎完成（町産材72%以上使用、SGECプロジェクトCoC全体認証取得）
〃 61年	美深町特別養護老人ホーム開所		
〃 62年	北部営農飲雑用水施設完成・給水開始		
平成4年	物産展示館「双子座館」オープン		
〃 5年	スバル・テストコース建設決定		
〃 6年	カナダアシュクラフト村と友好都市提携		
〃 7年	下水道一部供用開始		
〃 10年	美深町文化会館COM100完成、開基100周年記念式典挙げる		
〃 11年	森林公園びふかアイランド完成		
〃 12年	第4次総合計画樹立		
〃 16年	「総合窓口」の開設		

〔行政施策の重点事項〕

令和3年度から10カ年の第6次美深町総合計画を樹立、まちの将来像を「未来へ続く 笑顔あふれるまち 美深」とし、本町の美しい自然環境や多様な地域資源、心優しい人々の魅力を最大限にいかし、培われた歴史・文化を大切に守り育てながら、新たなまちづくりの魅力や活力ある産業の振興を図り、誰もが安心して快適に暮らすことができるまちづくりに向けて取り組む。

1. 人と自然が調和する快適で安全なまち

環境保全・環境衛生の推進、道路・交通網等の整備、住宅の整備、土地の有効利用、消防体制の充実、防災体制の充実、交通安全・防犯対策の推進、情報化の推進、消費生活対策の推進

2. 地域産業への新たな飛躍へ挑戦するまち

- 農業の振興、林業の振興、商工業の振興、観光の振興、新たな産業の振興、就労対策・勤労者福祉の充実
3. 次代を生き抜く力と豊かな心を育むまち
幼児教育の充実、学校教育の充実、社会教育の充実、芸術・文化活動の推進、スポーツ活動の推進
 4. 健やかに安心して暮らせるまち
健康づくり・医療の充実、子育て環境の充実、高齢者支援の充実、障がい者支援の充実、地域福祉の充実、社会保障の充実
 5. みんなでつくる自立したまち
住民参画のまちづくりの推進、関係人口の創出、行政経営の充実

〔行政管理の特色〕

1. 職場環境の整備
住民サービスと能率的な行政処理のため、平成 23 年 6 月から従来のグループ制に加え係長を配置し、担当業務を明確にすると共に、事務を横断的に進めている。
2. 住民との対話
「住民参加のまちづくり」を基本とし、自治会組織を確立、町政懇談会等の機会をとらえ、住民の声を直接聞き、活発な広報活動を展開、住民と直結した、町政施行に努めている。
3. 行政の近代化
平成 23 年度から全町光ファイバー網の供用開始によって、防災・緊急情報の伝達手段と美深全域における超高速通信環境を整備し、行政情報の効率的な伝達を図っている。

〔財政の概況〕

町税が伸び悩む中、一般財源の確保は益々厳しくなり地方交付税に依存する財政運営が続き、歳出においても少子高齢化が進み、扶助費の増加や他会計への繰出金などが増加していくことが予想される状況である。このため、第 6 次美深町行政改革大綱を推進し、スリムで効率的な行財政の維持・確立を目指している。

〔主な公共施設〕

1. スポーツ施設 町民体育館、町民プール、町営球場、美深スキー場、弓道場、全天候型テニスコート、ゲートボール場、キャンプ場、ゴルフ練習場、運動広場（ソフトボール場、パークゴルフ場）、エアリアル公認コース
2. 福祉施設 特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ほっとプラザ☆スマイル（高齢者活動施設・公衆浴場）
3. その他 高等学校、高等養護学校、中学校(2)、小学校(2)、幼児センター、学校給食センター、児童館、文化会館 COM100、地域コミュニティーセンター(16)

〔産業・経済〕

本町の主要産業は農業と林業の二大基幹産業で構成され、農業については水稻、畑作、酪農・畜産の 3 形態を主軸として経営され、特に畑作は野菜の導入促進が図られ有機物を利用したクリーン農業が進められている。

林業については全道一広大な道有林を有し、上川総合振興局北部森林室が置かれるなど民有林を含め育林・造林等が進められ、豊富な森林資源を利用した生産活動が行われている。

商業も過疎化の中にあっても常に新しい感覚、アイデアで対策を講じ購買力の伸長を期している。

さらに、平成 30 年から令和 3 年度にかけて施設整備を行い、産学官連携によるチョウザメの産業化に向けて本格的に取り組みをスタートした。

〔文化・観光〕

文化会館 COM100 450 人収容の文化ホールを中心に、図書室、郷土資料室を併設した生涯学習施設として、平成 10 年に開基 100 年を記念して建設。

びふか松山湿原 標高 797m の最北限の高層湿原で、百余種の高山・湿原性植物、そして矮性のアカエゾマツ、ハイマツの群生と大小数個の高原沼とのコントラストは、とりわけ趣がある。北海道自然環境保全地域に指定されている。

仁宇布の冷水と十六滝 「仁宇布の十六滝」とは、仁宇布地域に点在している 16 ヶ所の滝のことで、それぞれに個性的な表情があり、中でも雨霧の滝など 5 つの滝は車で行くことが可能で、間近で見る滝は迫力がある。また、真夏でも 6℃ と冷たくおいしい仁宇布の冷水は、おいしい水の要件を全てみたしているミネラル豊富な湧水で、十六滝と併せて環境省から「平成の名水百選」に認定されている。

森林公園びふかアイランド 国道 40 号道の駅「びふか」に隣接する観光レクリエーション施設で、園内にはびふか温泉、ふるさと館、ログコテージなどの宿泊施設をはじめ、物産展示館「双子座館」、キャンプ場、パークゴルフ場、テニスコート、カヌーポート、ゲートボール場などのほか、ロシア原産のチョウザメを飼育展示している「チョウザメ館」があり、カナディアンカヌーによる三日月湖遊覧もできる。

函岳 標高 1,129m の頂上付近まで車で行くことができる全国的にも珍しい山で、頂上からは 360 度の絶景大パノラマが広がる。頂上へ続く約 27 km の砂利道はオフロードライダーに人気があり、頂上には休憩小屋であるヒュッテのほか、トイレ、駐車場なども完備されている。

トロッコ王国美深 「日本一の赤字ローカル線」としてその名を知られ、昭和 60 年に廃止となった旧国鉄・美幸線。その跡地を活用し、かつて列車が走っていた往復 10 キロの本物のレールの上を、白樺や木々のトンネルをくぐり風を切りながら走行するトロッコの乗車体験ができる。

〔宿泊施設〕

- びふか温泉 128 人収容（国道 40 号線）美深市街から北へ約 8 km 電話（01656-2-2900）
一般旅館 5 軒 115 人収容

音威子府村

おといねっぶむら



役場所在地 北海道中川郡音威子府村字音威子府4 4 4番地1
郵便番号 098-2501
電話番号 (01656) 5-3311
FAX番号 (01656) 5-3837
市町村コード番号 014702
市町村別類型 I-2
交通機関 宗谷本線音威子府駅から徒歩5分国道40号線沿い
ホームページ <https://www.vill.otoineppu.hokkaido.jp/>

〔地 勢〕

上川総合振興局管内の北部に位置し、まわりの四方を山に囲まれている。地形は村の中央を天塩川が貫流し、北西地域は段丘又は扇状地で平地は少なく、南東部地域は概ね扇状地で15%の平坦地があり耕地は1,600haにすぎず、酪農・畑作がその主たるもので、面積の80%は山林である。気象は寒暖の差が極めて大きく、冬季間は国内屈指の豪雪地で積雪量は2mを超える状況である。

〔歴 史〕

明治34年に帝室御料地に編入され、明治36年に初めて農地として貸付の制度が開け、翌37年に長村秀氏が下名寄村より川船で天塩川を下って咲来に上陸し、常盤駅通所取扱人として居を構えたのが開拓の起源である。当時は土別村戸長役場に属し、明治40年に下名寄村はか1か村戸長役場所管となり、明治45年、中川村戸長役場に属することとなった。大正5年4月1日より現在地を割り分村し、新たに常盤村戸長役場を咲来に設置し、大正8年に2級町村制が施行され、大正14年11月現在の音威子府に役場を移転し、昭和38年4月1日「常盤村」から「音威子府村」に村名を改めた。

開拓以来、馬鈴薯を主とする畑作農業であったが、昭和初期に乳牛が導入され酪農へと移り変わってきた。また、大正元年には国鉄宗谷本線が音威子府まで開通、大正2年には天北線が小頓別まで、大正11年には天北線、大正15年には宗谷本線が全線開通したことにより開発が一段と進み、宗谷・天北の分岐点として各産業が発展してきた。

しかし、国鉄の民営合理化による天北線の廃止は、国鉄職員の減少による過疎化を招き、全道一のミニ村となった。

〔村政のあゆみ〕

大正5年	中川村から分村し常盤村となる	平成11年	保健福祉センター新築、介護支援センター新築、音威子府医院改築
〃 14年	役場庁舎を咲来から音威子府に移転	〃 12年	下水道（農業集落排水事業）供用開始、生ごみコンポストプラント施設新築
昭和27年	役場庁舎新築	〃 14年	地域情報提供システム供用開始、総合計画樹立（第4期）
〃 38年	村名を「音威子府村」に改称	〃 15年	エコミュージアムおさしまセンター（砂澤ビッキ記念館）オープン
〃 40年	開村（分村）50周年記念式典	〃 16年	音威子府村100周年記念式典、住民保養センター（天塩川温泉）改築
〃 46年	総合計画樹立（第1期）	〃 18年	咲来小学校100周年記念式典
〃 47年	村民憲章制定、音威子府医院新築	〃 20年	「アジアプリントアドベンチャーinおといねっぶ」開催
〃 48年	住民保養センター（天塩川温泉）新築	〃 23年	松浦武四郎「北海道命名之地」木碑建替
〃 54年	役場庁舎新築	〃 24年	第49回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技、第30回全日本クロスカントリースキー大会開催
〃 56年	総合計画樹立（第2期）	〃 25年	総合計画樹立（第5期） おといねっぶ美術工芸高等学校チセネシリ寮（女子寮）増築
〃 57年	全日本クロスカントリースキー大会開催	〃 26年	音威子府小中学校校舎改築
〃 60年	咲来小学校新築	〃 27年	おといねっぶ美術工芸高等学校チセネシリ寮（食堂棟・男子寮）増改築
〃 61年	高等学校新築	〃 29年	福祉交流拠点地域複合施設ときわ新築
〃 63年	レストハウス新築	〃 30年	第3回小さな村g7サミット開催
平成元年	住民保養センター（天塩川温泉）改築		
〃 2年	山村都市交流センター新築、交通ターミナル新築		
〃 4年	高齢者生活福祉センター新築、農畜産物処理加工施設新築		
〃 5年	住民保養センターログハウス、青少年宿泊研修施設、地域交流センター新築、総合計画樹立（第3期）		
〃 7年	音威子府小学校改築		
〃 9年	音威子府村幼児センター新築		
〃 10年	住民保養センター（天塩川温泉）増築		

〔行政施策の重点事項〕

音威子府村の将来像を「1人ひとりの匠が活躍する村」とし、3つの基本目標と8つの施策の柱を設定し、村民全体で個性のある匠の里を創る。

1. 森とひとが共生する

(1) 森に囲まれた環境にやさしい村

①自然環境の維持・推進 ②循環型社会の形成

(2) 自然と調和した住み良い村

①自然と調和した村づくり ②暮らしを支える生活環境基盤の整備

- (3) 村民の命と財産を守る安全な村
- ①地域安全の確保
2. 森に学びひとが未来を創る
- (1) 村民の活力があふれる村
- ①農林業・商工業の振興 ②地場産品の振興 ③観光レクリエーションの振興
- (2) 自分らしい働き方と生き方を送れる村
- ①時代に合わせたライフスタイルの実現 ②雇用機会の充実 ③移住・定住の促進
3. 森の大切さを知るひとが育つ
- (1) 村への愛着と生きる力を育む村
- ①教育の充実 ②おと高を通じた地域振興 ③交流活動の促進 ④スポーツ・芸術文化振興
- (2) 互いに思いやり按針で生き活きと暮らせる村
- ①保健・医療サービスの整備 ②子育て環境の充実 ③福祉の推進 ④地域福祉の推進
- (3) とともに支え合い関わり合う村
- ①村民協働の仕組みづくり ②効率的な行政運営 ③行政サービスの充実 ④健全な財政運営
- ⑤公共施設等の総合管理 ⑥男女共同参画社会の推進

〔行政管理の特色〕

本村の行政組織機構は、平成 17 年度に住民課と保健福祉課、産業振興課と環境整備課を統合し、総務課・住民課・経済課の 3 課と教育委員会の体制となっている。係の配置は平成 13 年度からスタッフ制を採用し課付けの発令をしている。

職員定数も減員し、適正な定員管理と適正配置に努める一方、増大する行政事務量に対応するため、事務処理の円滑化かつ合理的な O A 化の推進を図り、効率的な行政運営と行政サービスの向上に努めている。

〔財政の概況〕

歳入は、人口の減少と零細な農業、商業の経営者が多いため、税収の割合が著しく少なく、地方交付税の占める割合が高くその依存度は大きなものとなっている。歳出は、大型の施設整備等の投資的経費は抑制されているが、義務的経費、特に公債費、人件費の占める割合が大きい。また施設管理費を含めた経常経費の増加もあり、歳出に見合った財源確保が厳しい状況にあり、住民福祉の向上と充実を図るため経費節減に努めているところであるが、今後も更なる経費削減対策が必要である。

〔主な公共施設〕

1. 住民保養センター「天塩川温泉」 前面に天塩川、函岳を望む絶景の地にあり、泉質も他に類のない良質のため村外各地から多数の保養客がある。(宿泊定員 100 名)
2. その他 村立診療所、歯科診療所、公民館、スキー場(ペアリフト 765m)、山村広場、トレーニングセンター、道の駅おといねっぷ、山村都市交流センター木遊館、交通ターミナル、農畜産物処理加工施設、青少年宿泊研修施設(トムテ)、地域交流センター、幼児センター、保健福祉センター、エコミュージアムおさしまセンター、福祉交流拠点地域複合施設ときわ

〔産業・経済〕

音威子府村は、天塩川流域を中心とする山間地における農業と、国道の宗谷・天北への分岐点という交通機関の要衝として各産業が発展してきたが、豪雪地という自然的条件もあり離農と国鉄の分割民営化により過疎化が進んでいる。

1. 農林業 山間地のため農地が少なく、後継者問題及び所得水準が低いため離農が進んでいるが、跡地利用による経営規模の拡大と近代化により小麦・馬鈴薯・ビートを主作とする畑作と酪農が主として営まれてきた。
- 平成 19 年度以降は農政の基本政策の転換にともない畑作の主作物がそばになっている、田は皆無である。林業は全面積の約 80% が森林であるが、道有林、北大研究林を除くと民有林はわずか 5% で出荷額は少ない。
2. 商工業 村内には、日用食糧雑貨を中心とする小規模な商店があるのみで、人口の減少とともに近隣市町への購買力の流出が相当見受けられる。

〔文化・観光〕

- 天 塩 川 国道 40 号線の音威子府村～中川間は天塩川に沿っており、その山間の景観は目を見張るものがあり絶好のドライブウェイである。支流にはヤマベが多く生息する。
- 天 塩 川 温 泉 天塩川、函岳を望むこの温泉は泉質もよく自然に恵まれた絶好の保養所である(生そば・おといねっぷ羊かん・木工品)
- 音威富士スキー場 全長 850m のグレンデと 1,300m の林間コースがあり、初心者から中級者まで幅広く利用されており、村外の利用者も多い。
- 全日本クロスカントリー音威子府大会 昭和 57 年から毎年 12 月下旬に開催され全日本 A 級選手参加による。

〔宿泊施設〕

- 住民保養センター「天塩川温泉」 宿泊定員 100 人 TEL (01656) 5-3330 JR 北海道天塩川温泉駅から徒歩 5 分、ほかに音威子府市街に、青少年宿泊研修施設(トムテ) 72 名収容 TEL (01656) 5-3157

中川町 なかがわちょう



役場所在地 北海道中川郡中川町字中川337番地
郵便番号 098-2892
電話番号 (01656) 7-2811
FAX番号 (01656) 7-2594
市町村コード番号 014711
市町村別類型 I-1
交通機関 宗谷本線(天塩中川駅)から徒歩5分
ホームページ <https://www.town.nakagawa.hokkaido.jp/>

〔地勢〕

上川総合振興局管内の最北端に位置し、東に北見、西に天塩の両山脈を擁し、この中央を流れる天塩川と、これに合流する安平志内川の流域に沿って南北に細長く開け、一部の緩傾斜地を除き平坦であり、土地は概ね肥沃で農林業が発達している。農業は酪農が主体であるが畑作も行われており、また、山地から大量の木材が生産されている。

〔歴史〕

明治36年に御料地の受付が開始され、初めて入地者をみた、翌37年には天塩川一大富間の道道開さくにより入地者も増加し、明治39年に中川村が誕生し人口もともに増加した。大正5年には音威子府村を分村し、次いで大正8年に2級町村制を施行、大正11年には国鉄宗谷本線が開通し急激に発展の一途をたどってきた。その後幾多の冷水害を繰り返したが、昭和39年町制が施行され、産業や生活基盤が充実してきた。このころ農業は、畑作から酪農へと移行し、国営パイロット事業、国営草地開発事業等により、酪農基盤の確保が図られ、現在乳牛約1,600頭を数え、酪農郷「中川町」へと発展してきた。

〔町政のあゆみ〕

昭和42年	保健センターオープン、中川商業高校を道に移管、山村振興第2期対策地域の指定、消防庁舎落成	平成7年	オートキャンプ場竣工
〃 49年	国営草地開発事業全計着工、治水顕彰碑建立、中川幼稚園園舎落成	〃 8年	特別養護老人ホームにショートステイ6床増床
〃 50年	歌内中学校統合により開校、中川町史完成、佐久小開校70周年記念式典、国根府川浚渫工事通水	〃 9年	天塩川リバーサイドパーク(パークゴルフ場)完成
〃 51年	中川中学校校舎及び体育館完成 板谷岩魚沢で山火事発生	〃 11年	第4次中川町総合計画樹立、農業集落排水事業一部供用開始、佐久中学校統合により廃校
〃 52年	役場庁舎移転、中川町民憲章制定、佐久中学校校舎及び中川診療所新築	〃 12年	中川町総合保健福祉センター竣工、エコミュージアム構想樹立
〃 53年	歌人斎藤茂吉来町記念碑建立	〃 14年	中川町エコミュージアムセンター「エコール」供用開始
〃 54年	第2次総合振興計画樹立、佐久小学校校舎竣工	〃 15年	道の駅なかがわ竣工、12年ぶりの町長選挙、中川町100周年記念式典挙行
〃 56年	長野県中川村と友好姉妹都市締結、国営草地開発事業完了	〃 16年	各合併協議(上川北部6市町村、西天北4町、中川郡3町村、音威子府村)相次ぎ破綻
〃 57年	岡田国一氏に名誉町民称号贈呈(第1号)、開基80周年記念式典挙行	〃 20年	幼児センター開設、中川町診療所移転新築、農業集落排水事業一部供用開始(佐久地区)
〃 58年	森林公園竣工	〃 21年	第1回町民植樹祭開催
〃 59年	町文化賞スポーツ賞制定	〃 22年	夏期の集中豪雨により甚大な被害が発生
〃 60年	地場産品加工研究センター竣工、立石宏行氏に名誉町民称号贈呈(第2号)	〃 23年	光ファイバー網敷設、IP告知端末機運用開始
〃 61年	中国残留日本人孤児受入基本構想策定	〃 24年	ゆるキャラ「じゅえる」誕生
〃 62年	中川町地場産業研修センター竣工	〃 25年	北海道中川商業高等学校閉校、自給飼料生産施設「自給飼料センター」開設
〃 63年	寿の家竣工	〃 26年	中川町交流プラザ(天塩中川駅)リニューアル、農村体験宿泊交流施設(とっくりいもハウス)オープン
平成元年	第3次総合振興計画樹立	〃 27年	認知症対応型グループホーム「ひだまり」開設 生涯学習センター「ちやいむ」オープン
〃 2年	企業誘致(繊維工場)に成功、佐久ふるさと伝承館建設、若者定住マンション建設	〃 28年	世田谷区下高井戸商店街にサテライトスペース「ナカガワのナカガワ」がオープン
〃 3年	クビナガリュウの化石発掘(2度目)	〃 29年	幼児センター竣工
〃 5年	開基90周年記念式典挙行、ボンピラアクアリズイング(フィットン浴健康センター)開業	〃 30年	株式会社中川町農業振興公社設立
〃 6年	カヌー工房竣工、町民プール竣工	令和元年	第7次中川町総合計画樹立

〔行政施策の重点事項〕

「町民参加の町政」を基本とし、第7次中川町総合計画の実現に向けて町政を執行するため、以下の取組に努める。

1. 徹底した節減・合理化を図り、産業の振興や人づくり、少子高齢社会に向けた諸施策の充実
2. 本格的な少子高齢化時代を迎え、町民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域福祉の実現

3. 令和3年度に策定した「第8次中川町農業振興計画」を基本に、畑作・野菜振興対策、畜産振興対策、畜産基盤再編総合整備事業、農業担い手対策等の推進と林業・林産業の活性化の推進
4. 商工業をとりまく環境は近年にない厳しい経営環境にあることから、引き続き金融支援対策に努める。
5. 国費、道費を積極的に活用した適正な事業の実施、地域経済の振興と雇用の安定に努める。
6. 次代を担う青少年が「ふるさと中川」に愛着と誇りをもって、たくましく学び続けるとともに、町民一人一人が心身ともに健康で生きがいをもって、心豊かに生活できるまちづくりに努める。

〔行政管理の特色〕

1. し尿・ゴミ処理施設 中川、幌延、豊富、天塩、遠別の5町の一部事務組合による近代化施設に共同処理を行っている。
2. 消防行政 上川北部消防事務組合中川消防支署を設置し、広域消防活動に努めている。

〔財政の概況〕

歳入においては地方交付税等に依存し、自主財源は25%前後を推移しており、財政上のゆとりは極めて少ない。しかしながら、行政改革、組織機構改革等により、進展する少子高齢化への対応や低迷する地域経済の振興・発展を目指す。

〔主な公共施設〕

1. 生涯学習センター 町民の日常生活における拠点的複合施設として、社会教育や文化活動、児童センター等に供している。
2. その他 公民館、幼児センター、小学校、中学校、自然公園、農業者トレーニングセンター、地場産品加工センター、町民野球場、町民プール、オートキャンプ場（ナポートパーク）、総合保健福祉センター、エコミュージアムセンター、天塩中川駅（中川町交流プラザ）

〔産業・経済〕

産業動向をみると第1次産業の割合は低下しているのに対し、第2次産業・第3次産業とも若干ではあるが伸びている。生産所得については全体的にあまり伸びはみられず、経済の低迷が感じられる。

基幹産業である農業は、畜産担い手育成総合整備事業による農地整備事業、中山間地域整備事業等による農業生産基盤の整備を通じ、効率的かつ安定的な農業経営を目指し、更なる発展に向け進みつつある。

〔文化・観光〕

中川町エコミュージアムセンター 本町が推進する「エコミュージアム構想」のコア施設として位置づけられた自然誌博物館／宿泊型体験・研修複合施設である。当センターは廃校となった旧佐久中学校を全面改装し、1) 学術情報発信の場、2) 学びと交流の場、3) 地域住民のまちづくり参画の場、として2002年7月にオープンした。旧体育館部分の「自然誌博物館」は町内で発見された国内最大のクビナガリュウ（全長11m）やアンモナイトなどの化石、アカエゾマツをはじめとする巨木群、考古学や産業に関する資料など約600点を展示し、町の自然・歴史を解説した総合的な博物館である。旧校舎部分は宿泊・研修施設で、約100名収容の視聴覚室、宿泊室、大小の浴室、クリーニング室、研修室、図書室などがある。

当センターを中心に、「森の学校」をはじめとする普及事業や斉藤茂吉由来の地「志文内峠」の復元など中川町の自然・産業・文化・生活史に関する地域財産の調査・研究活動およびそれらの普及・保全活動が展開されており、斉藤茂吉の歌碑が昭和7年8月に茂吉が兄の守谷富太郎氏を訪れた共和地区「茂吉小公園」等に2基建てられている。

〔宿泊施設〕

旅館は、中川市街地にボンピリアクアライズイングを含めて2軒ある。

幌加内町

ほろかないちょう



役場所在地 北海道雨竜郡幌加内町字幌加内4699番地
郵便番号 074-0492
電話番号 (0165)35-2121
FAX番号 (0165)35-2127
市町村コード番号 014729
市町村別類型 I-0
交通機関 JR北海道バス幌加内停留所から徒歩3分
ホームページ <https://www.town.horokanai.hokkaido.jp/>

〔地勢〕

上川管内西部に位置し、東西方向約24km、南北方向約63kmと、南北に長い形をしている。行政面積は767㎏と広大であり、東には名寄、士別、旭川の各市及び和寒町、西には小平・苫前・羽幌・遠別の各町、南に深川市、北に美深町、中川町と11の市町に隣接しており、町役場所在地より札幌市まで道路で149.1km、旭川市は44.8km、名寄市は71.8km、深川市には45.5kmの地点にある。

町の周囲は国有林や北大雨竜研究林の森林に囲まれ、おおむね山岳が多い地勢となっており、天塩山系のピッシリ山の1,031mをもっとも高い標高として、幌加内市街地で標高156m、朱鞠内地区で標高250m、母子里で287mとなっている。

町の中央を貫流する雨竜川は石狩川的一大支流で、雨竜・天塩・苫前の三郡に跨る高峰ピッシリ山に源を發し南流すること82kmで石狩川に合流する。この流域には大小の盆地が形成されており、肥沃な農耕地、草木地とともに、母子里・朱鞠内・添牛内・政和・幌加内の5つの市街地が形成されている。

また、北部には、日本最大の広さを誇る人造湖の朱鞠内湖（表面積23.73㎏）があり、周辺一体は道立自然公園に指定されている。

〔歴史〕

明治20年代後半、浅羽靖あるいは浦音吉親子によって幌加内原野が発見され、世間に紹介されたと伝えられている。

明治30年7月、道庁によって幌加内原野の植民地区画に着手、内田澁、小野政衛により測量が進められた。同年、吉田正義外が幌加内原野未墾地の貸付を請け、同年8月19日、吉田三郎ら4名が鷹泊から雨竜川を遡り入地した。明治31年、大塚常次郎、大島信、菅丈吉らも大地積の貸付を受け同時に多くの移住者が入地し実質的に開発が緒についた。

明治32年、鷹泊・幌加内間道路が開通し官設幌加内駅通所が設けられる。明治41年には幌加内市街区画を設定し翌年から北大雨竜演習林の植民が開始され、明治44年3月添牛内御料地の貸付が決定、入植が進められるに至った。幌加内方面も御料・演習林の植民により漸く人口も増加し、独立の機運が熟し、大正7年4月3日住民待望の幌加内村戸長役場が設置された。

〔町政のあゆみ〕

明治30年	雨竜川を遡りホロカナイ原野に入地	平成11年	農業活性化センター「アグリ21」完成
大正7年	幌加内村戸長役場設置	〃 12年	幌加内町農業協同組合解散式、新きたそらち農協幌加内支所記念式典、そば乾燥調製施設「そば日本一の館」竣工式
昭和13年	雨竜ダム起工式（昭和18年10月完成）	〃 13年	老人福祉寮「福寿荘」改築
〃 16年	深名線鉄道全線開通	〃 15年	第10回新そば祭り（世界そばフェスタ）せいわ温泉「物産館」新設
〃 30年	水害発生 有史以来最大被害となる	〃 20年	朱鞠内湖淡水魚種苗生産供給施設完成
〃 33年	村章および村歌制定	〃 21年	町制施行50周年記念式典
〃 34年	町制施行	〃 22年	上川総合振興局の所管区域となる 国道275号幌加内トンネル開通
〃 39年	朱鞠内大火（116戸焼失）	〃 24年	小希望多機能型居宅介護支援事業所開所 穀類乾燥調整貯留施設「そば日本一の牙城」竣工 幌加内簡易水道前処理施設完成
〃 42年	町民憲章制定	〃 25年	農産物処理加工施設「そばの実工房」竣工、第20回新そば祭り（第19回日本そば博覧会・世界そばフェスタ）開催
〃 49年	朱鞠内道立自然公園の指定	〃 26年	農産物低温貯蔵施設「雪乃御殿」竣工
〃 54年	学校給食センター建設	〃 28年	地域密着型特別養護老人ホーム「テルケア」オープン、幌加内診療所開設
〃 56年	山村広場オープン	〃 29年	開基120周年記念式典
〃 58年	町民研修センター、役場新庁舎落成	令和2年	せいわ温泉「ルオント」リニューアルオープン
〃 61年	ふれあいの家「まどか」オープン		
〃 63年	幌加内高等学校新校舎落成		
平成元年	農産加工総合研究センター落成		
〃 2年	朱鞠内湖畔にさわやかトイレ設置		
〃 6年	せいわ温泉「ルオント」オープン、第1回新そば祭り開催		
〃 7年	JR深名線廃止		
〃 8年	保健福祉総合センター「アルク」完成		
〃 9年	開基100周年記念式典、生涯学習センター「あえる97」完成		
〃 10年	交流プラザ完成		
	100周年記念公園パークゴルフ場オープン		

〔行政施策の重点事項〕

人に自然に優しい故郷づくりを基本理念に、第7次総合振興計画を策定し、計画的で着実な町づくりを進める。

地域の個性や資源を活かしながら、町民と行政が積極的に意見交換し、行政だけでは担えない地域課題の解決と目標の達成に向けたともに協力しあい、連携・補完しあって町民参加によるまちづくりを進める。

1 自然と共生したまち

- 1) 自然と共生したふるさとづくり
- 2 生きいきと健やかに暮らすまち
 - 1) 生涯健康で暮らせる保健・医療体制の充実
 - 2) 地域ぐるみで支え合う福祉社会の形成
- 3 住みやすくにぎわいと安心のあるまち
 - 1) にぎわいと交流を生み出すネットワークの形成
 - 2) 暮らしたくなる生活環境の整備・充実
 - 3) 安全で安心な暮らしの確保
- 4 誇りと活力のあるまち
 - 1) 基幹産業としての第一次産業の振興
 - 2) 地域に根付いた商業・地域産業の展開
 - 3) 活性化を促す観光・交流の促進
- 5 夢と豊かな心を育む学びのあるまち
 - 1) 将来を拓く教育環境の充実
 - 2) 文化創造とスポーツ・レクリエーション活動の展開
- 6 みんなで築き合うまち
 - 1) 自ら創るまちづくりの推進
 - 2) 効果的な行財政運営体制の確立

〔行政管理の特色〕

平成 28 年度より幌加内町第 5 次行政改革大綱を策定し、行財政改革を実施しており、また、令和 4 年度より第 4 次幌加内町地球温暖化対策実行計画により、温室効果ガスの削減を図っている。

〔財政の概況〕

歳入の約 57% を地方交付税が占めており、町税は約 4 % に過ぎず、町債が約 16% となっている。厳しい財政状況にあるが、行財政改革を図りながら経常経費の削減に努め、町総合振興計画に掲げる重点事業を着実に遂行し、健全な財政運営に努めている。

〔主な公共施設〕

町立診療所、町立歯科診療所、生涯学習センター「あえる 97」、保健福祉総合センター「アルク」、農業活性化センター「アグリ 21」、高齢者コミュニティセンター、老人福祉寮「福寿荘」「延寿荘」、北部地域包括ケアセンター、除雪センター、給食センター、一般廃棄物最終処分場、山村広場、火葬場、町営パーク堆肥場、ほろたちスキー場、百年記念公園

〔産業・経済〕

1970 年（昭和 45 年）、米の生産調整政策が長期化していく中で、幌加内町の基幹産業である農業は米からそば栽培へと転作された。これは、幌加内町の冷涼な気候、昼夜の寒暖差、そして夜の冷え込みと日中の温度差を和らげる朝霧の発生等々の自然条件がそば栽培に適していたことや、2～3ヶ月の短い生育期間で収穫できることによるものであり、以来、栽培技術の向上に努め、そばの作付面積は増加を続け、1980 年（昭和 55 年）には、作付面積が日本一となり、現在では、作付面積 3,440ha、生産量は 2,550 トン以上で、そばの作付面積、生産量ともに日本一の生産地となっている。

〔文化・観光〕

道立自然公園朱鞠内湖 北欧の湖畔に居るような錯覚をもたらす日本最大の人造湖「朱鞠内湖」。昭和 49 年に道立自然公園に指定された朱鞠内湖一帯は自然保護上の厳しい規制を受ける原生林が広がり、今もなお、自然の原形をとどめている。大小 13 の島々が浮かぶ湖は幻想的な雰囲気醸し出し、絶滅危惧種である幻の魚「イトウ」が棲むことから神秘的の湖と呼ばれ、釣り人たちの聖地となっている。周辺にはレストラン、キャンプ場などの施設があり、毎年多くの観光客が大自然を楽しみに訪れている。

新そば祭り 「日本一のそばの生産地・幌加内」を PR しようと平成 6 年より開催された「新そば祭り」は、純白のそばの花が見頃を終えた 8 月下旬または 9 月上旬に開催。旬の「新そば」を食材に用いて繰り広げられる「全国ご当地そば自慢広場」には、地元のそば打ち愛好家はもとより、札幌・新潟・福井・兵庫県などの老舗のそば処が軒を連ね、来場者は次々とはしごをしながら各店自慢の味を堪能する事ができる。同時に、一般社団法人全麺協が共催する「素人そば打ち段位認定大会」では、そば打ちの技術が審査され、段位認定を目指した手打ちそば愛好家が一堂に会し、競い合う。また、手軽にそば打ち体験ができる「そば打ち講習会」や「そば早食い大会」、多彩な芸能が催される「ステージショー」など、そば好きならずとも楽しめる「新そば祭り」は、道内屈指の秋の食祭として多くの観光客が訪れる。

百年記念公園 開基百年を記念して建設されたメモリアルパーク。公園内に建てられたモニュメントは、高さ 21m、東西に連なる山々を 2 本の塔で表現し、その間を流れる雨竜川を S 字状のラインで表している。公園内には、100 年記念広場、ジョギングコース、54 ホールのコースからなるパークゴルフ場が整備され、連日多くのプレーヤーで賑わいを見せる。子供向け用具の貸出もあり家族連れでも楽しめる。売店では名物のそばも堪能できる。

せいわ温泉「ルオント」 天塩山脈の麓、そばの里に湧き出す「三頭の湯」は人々のふれあいを生むくつろぎの場として、また健康長寿のための保養施設として利用できる。泉質は、ナトリウム塩化物泉で、浴用では神経痛、筋肉痛、健康増進、慢性婦人病、冷え性、痔疾慢性皮膚病に効果がある。

ほろたちスキー場 北緯 44 度、マイナス 41.2℃の日本最寒の地で、夜のしほれにより水分をほとんど含まないサラサラの雪質、急斜面が揃う恵まれた自然環境にある。道内有数の豪雪地のため降雪は十分で、最大斜度 44° の名物コース「ほろたちコース」をはじめ各コースに非圧雪部を残している。

〔宿泊施設〕

ふれあいの家「まどか」、レークハウスしゅまりない、ほろたち山荘（ほろたちスキー場）、吉野屋旅館、手打ち蕎麦の宿「朱鞠内湖そばの花」